

# ACCESSIBLE DESIGN

The Periodical of

## アクセシブルデザインの総合情報誌 インクル No. 45

2006 (平成18) 年11月25日

No. 45

"Incl." by The Accessible Design Foundation of Japan (The Kyoyo-Hin Foundation)  
共生社会の実現を願う妖精「インクル」 「包括的教育理念」を意味する英語「インクルージョン」から名付けました

### 目次 / contents

- 「障害者の人達にとっても役に立つ共用品を作る人になりたい！」  
昭島市「子どもの主張コンクール」で江利友花さんが最優秀賞 (森川美和)…………… 2
- <共用品・共用サービス ニュースワイド> (高嶋健夫、森川美和、渡辺文子)  
東京ディズニーシー/ワールドパイオニア/セイコークロック/京セラ/スワニー/  
徳武産業/ダイイチ/チャップリン/コーポレーションパールスター…………… 4
- 2006年版「高齢者・障害者等JISハンドブック」発行 (星川安之)…………… 8
- <随想 私と共用品>第24回  
共用品・ADiは“健康な高齢社会”への近道 (矢野友三郎)…………… 9
- 映画「ベルナのしっぽ」公開 (福西七重)…………… 10
- <この業界・この団体> (社)交通バリアフリー協議会  
バリアフリー新法施行で、「面的整備」を技術面で推進 (高嶋健夫)…………… 11
- 「韓国シルバー産業フォーラム」開催  
日中韓の専門家が高齢化への対応で意見交換 (金丸淳子)…………… 12
- 共用品ネット活動報告会、12月16日に開催 (佐藤俊夫)…………… 13
- <キーワードで考える共用品講座> 第44講  
「共用品の経営戦略：連携して事業化」(後藤芳一)…………… 14
- <事務局長だより>いかにして「確保する」を確保するか (星川安之)  
共用品通信…………… 15
- <わが社のエース> (株)UDジャパン「ユニバーサル手話シリーズ」(書籍)  
健聴者にも役立つ“コミュニケーションの必需品” (高嶋健夫)  
奥付…………… 16



■ 「コミュニケーション支援用絵記号デザイン原則 (JIS T0103)」に記載されている絵記号例。左から「ジャンパー」「描く」「玩具」(共用品推進機構ホームページから無償ダウンロードできます)

## 「障害者の人達にとっても役に立つ共用品を作る人になりたい！」

東京・昭島市の「第24回子どもの主張コンクール」で、  
江利友花さん（拝島第三小）が最優秀賞受賞



■共用品について語り合う江利友花さん（右）と高橋玲子さん

東京都昭島市が毎年開催している「子どもの主張コンクール」（市内小中学校の児童・生徒が対象）で、拝島第三小学校に通う小学校6年生の江利友花さんが、応募2361編の中から最優秀賞を受賞した。作品のタイトルは『共用品って知っていますか？』。共用品推進機構が近年力を注いでいる教育分野において、少しずつ小さな芽が育ってきたことは大変うれしいことである。

昨秋、タカラトミーに勤務する高橋玲子さん（個人賛助会員・視覚障害者）と共用品推進機構のスタッフが、拝島第三小学校を訪れ共用品についての授業を行った。その際に、高橋玲子さんの話を聞いた5年生の江利さんが、障害のある人と共用品について、強く感銘を受け、自分の気持ちを作文にした。

今秋、同校で再び共用品の授業を行った際に、高橋さんと6年生になった江利さんが1年ぶりに再会。受賞した作品を高橋さんの前で朗読した。

作品を聞いた高橋さんは、『自分が工夫してやっても、みんながやってくれないと、世の中には広がらずに、考えただけで終わってしまう』『日本の共用品と外国の共用品も違うので、世界中で一緒に取り組むことの大切

さ』、そして『一般人にも障害者にも便利で、安全でなければ』など、本当に大切なことを、あの短い時間をきっかけに考えてくれたことがとてもうれしい』と話している。

江利さんは作文の最後で「共用品や共遊玩具を作る人になりたい」と結んでいる。

そう遠くない将来、共遊玩具の普及に取り組んでいる高橋さんと、江利さんが共用品や共遊玩具の企画や普及に共に取り組む日が来ることを期待したい。

なお、同コンクールの詳細については、昭島市のホームページ（<http://www.city.akishima.tokyo.jp/0200manbuasobu/213ManabuAsobuSub/01000091manabu04.htm>）を参照されたい。  
もりがやみわ  
(森川美和)

## 最優秀賞 「共用品って知っていますか？」

拝島第三小学校 六年 江利 友花

五年生の総合で、私達は、実際に目の前で障害者の人達の話を知りました。その障害者の人達の話の中で、もっとも感心したのが、目の不自由な高橋さんの話です。腕時計の話でした。高橋さんがしていた腕時計は、共用品でした。共用品とは、一般人から、障害者、お年寄りまで、だれもが便利に使える物の事をいい、なんと、高橋さんの時計は、ガラスのふたが開くようになっていて、時計の針に、触られるのです。だから、目の不自由な高橋さんにも、時刻を知ることができるとっても便利な時計だということがわかりました。そのような共用品が障害者の人達に、とっても役に立っているというところに、私は、感心したのです。

そのあと私は、共用品にとっても感心したし、もっと共用品の事を知りたかったので、共用品グループに入りました。そして、共用品を自分達で作ることになり、私と、石川さんと、山田さんの三人は点字の付いた、ジュースパックを作りました。それは、牛乳パックには、切れ目がついていて、目の不自由な人達にも、「これは、牛乳だよ。」と分かるようになっているのに、なぜかジュースパックには、「これはジュースだよ。」という印がなかったのです。それでは、目の不自由な人にとって不便だと思いました。目の不自由な人達も、ジュースだって飲みたくなることがあるだろうし、ジュースパックを触っても、（これは何？）と思って、買わないかもしれません。それに、近くにスーパーの人達がいないと、またそれも買えなくなってしまいます。だから私は、ジュースパックに点字を付けました。

だけど、私達三人は、共用品にする難しさというかべに、ぶつかりました。それは、自分が工夫してやっても、みんながやってくれないと、世の中には広がらずに、考えただけで終わってしまうということです。それに、日本の共用品と外国の共用品も違うので、障害者にとって不便だから、私は、外国といっしょにした方がいいと思いました。

共用品を作るのは、とても大変です。私は実際に自分の手で作ったから言えます。手間がかかるから大変なのです。共用品は、まず、一般人にも障害者にも便利で、安全でなければいけません。また、共用品には、定義や原則があり、それを守って作らないといけないのです。そういう理由で共用品を作るのには、とっても手間がかかるのです。だからいっぱい努力しなくちゃ作れないけれど、努力したら、努力した分だけ、障害者の人達が、すごく喜んでくれるんじゃないでしょうか？なので、六年生になった今でも、私は、障害者の人達がこまっていたら、助けてあげたいと思っています。

目の不自由な高橋さんは、ある会社で、目の不自由な子供達のために、共遊がん具を自分で考えて作っています。だから、私は、将来、高橋さんのように、子供から、お年寄りまでの障害者の人達に、とっても役に立つ共用品や、共遊がん具を作る人になりたいです。そして、多くの障害者の人達に、希望の光を見せてあげたいです。

## ＜共用品・共用サービス ニュースワイド＞ より便利に、よりおしゃれに、進化する共用品

より便利に、より機能的に、より楽しく、よりおしゃれに——共用品・共用サービスの進化が止まらない。産業界でアクセシブルデザイン（AD）への理解が深まる中、ICT（情報通信技術）の高度化や半導体などデバイスの低価格化によって機能面での高度化・多様化が進み、その一方で、高感度の団塊世代をターゲットにしたよりファッショナブルな商品作りも活発になっている。AD開発の新潮流を示す新製品を特集して紹介する。

### 東京ディズニーシーに「音声仕様の触知図」 音楽・効果音をライブ録音、臨場感を演出

（株）オリエンタルランドが運営する東京ディズニーシー（TDS）に「音声仕様の触知図」=写真©Disney=が登場した。

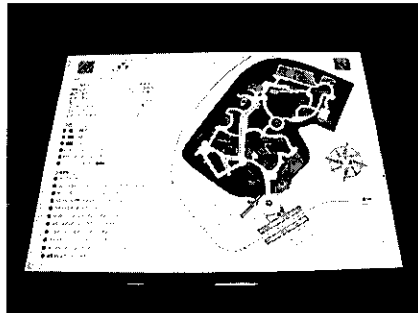
現在、東京ディズニーランド（TDL）には5カ所、TDSには2カ所に触知図が設置されており、各エリアごとに触感の異なる布地などを張り付けて、テーマの違いが手触りでイメージできるような工夫が施されている。このうち、TDSのゲストリレーションセンター内にある触知図が今年7月、音声ガイド機能付きの新型にリニューアルされた。

凡例ボタンを押すと「地図の中央、12時の方向にあります」といった具合に、TDSのシンボルである「プロメテウス火山」を基点

に行きたい場所を音声で案内する。そして、目的地のボタンを押すと、「皆さん、こんにちは……」といった案内役のキャストのアナウンスや列車が走る効果音など、実際に現場でライブ録音した音が流れる仕組みになっている。こうしたライブ音源は、視覚障害者などに提供している「CDガイドブック」でも活用しているが、触知図でも「楽しさの演出」を目指して新たに採用した。（高嶋健夫）

■TDRホームページ

<http://www.tokyodisneyresort.co.jp/>



### ワールドパイオニア、「多機能LED表示器」を発売

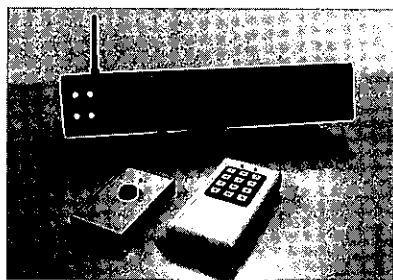
（株）ワールドパイオニア（本社東京・中野区、なかそのひでこ 中園秀喜社長）は発光ダイオードで電光文字を表示する「LED表示器」に、有線リモコンで操作できる新機種=写真=を追加発売した。病院、金融機関の窓口など、聞こえない人も利用する公共機関向けに売り込む。

同社の「LED表示器」は持ち運び可能な据え置き型で、専用の設定ソフトによってパソコンで最大16種類のメッセージを登録できる（1メッセージ当たりの文字数は70字前後）。標準型の「タイプA」（税別希望小売価格11万円）は本体の操作ボタンでメッセージの切り替えを行っていたが、手元で操作した

いと要望が多いため、有線リモコン付きの新機種を発売した。メッセージの切り替えができる「タイプA1」（同12万5000円）と、「1番の方」といった順番切り替え表示もできる「タイプA4」（同24万5000円）とがある。また、横幅が標準タイプの2倍あるダブル表示サイズの「タイプA5」（同16万5000円）も発売中だ。（高嶋健夫）

■（株）ワールドパイオニアホームページ

<http://www.wp1.co.jp/>



## 音量を調節できるアナログ電波目覚まし時計 セイコークロックが新機種を発売

セイコークロック（株）は、アラーム音の大きさを無段階で調整できるアナログ電波目覚まし時計「KR321L」「KR321W」=写真=を発売した。

同社はボタンを押すだけで「時刻」「日付」「曜日」を音声で教えてくれるデジタル電波目覚まし時計「トークライナー」を販売し、視覚障害者から支持を得ているほか、ダイヤルをまわしてアラーム時刻を合わせることができる、操作が簡単な電波目覚まし時計など、多彩な商品をラインナップしている。

今秋発売のアナログ電波目覚まし時計の新機種は、同社が2005年10月に行った消費者アンケートで、4割以上の人から要望があったメロディーやアラームを無段階でボリューム調整可能な「アラーム音の音量調節機能」を

搭載し、利便性をさらに向上させた。

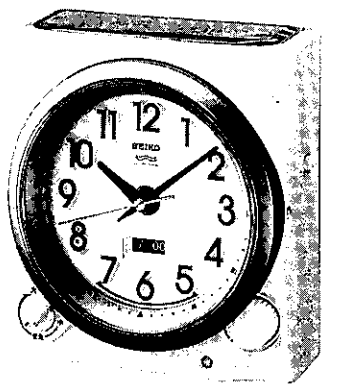
このほか、文字盤内のデジタル表示部を使い、1分単位でアラーム時刻をセットできる機能や、ボタンを押すと、一定の時間、小さなLEDライトが文字盤面を照らす機能なども付いている。

「L」が薄青パール、「W」が白パール塗装。アルカリ単3電池2本使用で、電池寿命は約1年間。希望小売価格は4725円。

（森川美和）

■セイコークロック（株）ホームページ

<http://www.seiko-clock.co.jp/>



## 右利き、左利きのどちらも使える「回転式ピーラー」 京セラの「セラミックキッチン用品」に人気

京セラ（株）が「セラミックキッチン用品」シリーズの中に発売した、右利きでも左利きでも使える新型皮むき器「セラミック回転ピーラー」=写真=が人気を呼んでいる。

同社は「錆びない・摩耗しにくい・金気が食材につかない」というファインセラミックの利点を刃部に活かした皮むき器（ピーラー）を1994年より販売している。ピーラーといえば、日本国内では、グリップと刃体部分が垂直に固定された「T字型」が一般に普及しているが、利き手や食材によってはうまく使えない場合もある。

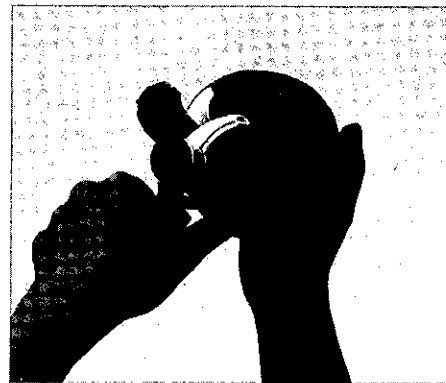
それに対して、この「セラミック回転ピーラー」は、刃を回転させてグリップと刃の取り付け角度を5段階に調節できるのが特徴。左右の利き手、個人の好み、あるいは調理する食材に合わせ、T字、I字のほか、斜めにも刃体の向きを調節できる。刃体とグリップ

を斜めの方向に調節すればゴボウのささがきが、同じ方向（I字型）に調節すると、包丁を扱うようにリンゴやナシの皮むきが行えるなど、従来のT字タイプのピーラーではできなかった皮むき作業を可能にした。

セラミックの刃体は水洗いが簡単なほか、除菌、漂白も可能。グリップはエラストマー樹脂製の大きめの設計になっており、滑りにくく、使用時の安定感もある。オープン価格。（渡辺文子）

■京セラ（株）ホームページ

[http://www.kyocera.co.jp/prdct/fc\\_consumer/index.html](http://www.kyocera.co.jp/prdct/fc_consumer/index.html)



## ハンドバッグ代わりになる「ウォーキングバッグ」を発売 スワニー、新開発の“鳥居フレーム”採用

杖のように体重をかけながら歩くことができる鞆「ウォーキングバッグ」を製造販売する(株)スワニー(本社香川県東かがわ市、三好鋭郎社長)は、ハンドバッグ代わりに使える「アルジェント」=写真=を9月に発売した。

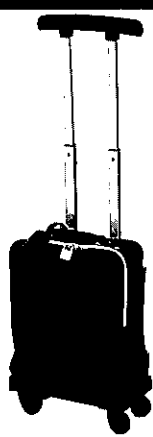
「ウォーキングバッグ」は内側に傾斜させた湾曲ハンドル、ハンドルとフレームの一体構造などによって、持つ人の体重を受け止めるように設計された4輪キャスター付きの鞆。旅行用の大型バッグを中心に20タイプ以上をラインナップしている。

「アルジェント」は、買い物など日常のお

出かけ時に適した軽量コンパクトタイプで、重さは1.6kg、容量は約9ℓ。中高年の婦人層に「日常使いのバッグがほしい」という要望が多いことを受けて商品化した。新開発の“鳥居フレーム”を採用し、バッグ本体の袋部分をフレームから取り外して、普通のバッグとして使うこともできるようになっている。希望小売価格は1万6800円。

■(株)スワニーホームページ

<http://www.swany.co.jp/wb>



## 徳武産業、「あゆみシューズ」の06年モデルを発売 お揃いの巾着とのセットでおしゃれを演出

徳武産業(株)(本社香川県さぬき市、十河孝男社長)は、「あゆみシューズ」の2006年ニューモデルとなる「マジックゴムバンドⅡ」と「マジックブーツ」2タイプを発売した。

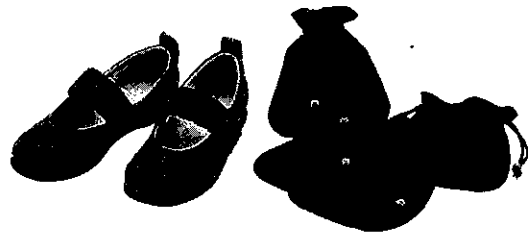
「マジックゴムバンドⅡ」はゴムバンドを甲にかける室外用シューズで、従来と同様に左右サイズ違い、片足での販売も可能。新たな提案として、おしゃれな江戸小紋柄を採用し、同じ色柄の巾着(別売り)とトータルコーディネートできるようにした=写真。色はあずき、茶、紺、黒。サイズはS~3L(21.0~25.5cm、1cm刻み)。希望小売価格は4725円(片足のみは2415円)、巾着は1050円。

「マジックブーツ」は防寒ブーツの新製品

で、ゴム底タイプと、雪道用にセラミック防滑底を採用した「マジックブーツセラミック」を同時発売した。色はベージュ、茶、黒。サイズはS~3L。希望小売価格は「マジックブーツ」が8190円(同4200円)、「同セラミック」が1万290円(同5250円)。

■徳武産業(株)ホームページ

<http://www.tokutake.co.jp/>



## ダイイチ、らくらく実感「チア&缶タブオープナー」を新発売

(株)ダイイチ(本社兵庫県小野市、宮永英孝社長)は、手の力の弱い人でも缶や容器のフタが軽く開けられる「らくらく実感オープナー」の新製品として「チア&缶タブオープナー」=写真=を発売した。

缶タブを開ける差し込み口と、ゼリータイプ食品など径の小さい「チアパック」のキャップを回す円形のオープナーを組み合わ

せた。サイズは50×25×7mmで、色は4色。価格は105円。これで同オープナーは缶タブ・ペットボトル用、ペットボトル・チアパック用と3タイプとなった。

■(株)ダイイチホームページ<http://www.daiichi-j.com/>



## ステッキのチャップリン、新シリーズ「フリーダム」発売 “持ち手”の形状・デザインを一新

ステッキ専門店「チャップリン」を運営するサン・ビーム(株)(本社東京・新宿区、山田澄代社長)は「GINZA」シリーズの折り畳み式ステッキの新商品「FREEDOM(フリーダム)」シリーズ=写真=を発売した。

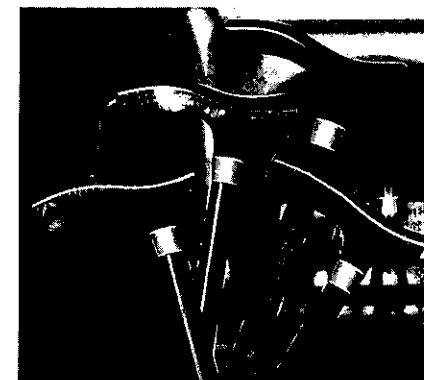
「GINZA」シリーズはカラフルな色柄と1万円前後の手ごろな価格で大ヒット。転倒予防医学研究会の推奨品にもなっている。

「フリーダム」はステッキの持ち手にアクリル素材を採用し、形状・デザインを一新した。透明なアクリルに本物の鳥の羽根を流し込んで成型するなど、手作りで制作。「ほろ

ほろ鳥」「アンモナイト」「黒大理石」など、1本1本異なる絵柄を練り込んでいる。ステッキ本体のシャフトは従来と同じアルミ製で、持ち手からシャフトまで「桜」柄がグラデーションで描かれたタイプもある。希望小売価格は1万4700~1万9950円。

■チャップリンホームページ

<http://www.chaplin.co.jp/>



## コーポレーションパールスター、「色がかんたんにわかるくつ下」発売 履き口の「ライン」の本数で色を識別

靴下メーカーの(株)コーポレーションパールスター(本社広島県東広島市、新宅悦雄社長)は、視覚障害者でも手触りで色が識別できる「色がかんたんにわかるくつ下」(商品名)=写真右=を開発し、今夏から本格発売した。

男性用と女性用があり、希望小売価格は男女共に735円。サイズは男性用が24~26cm、女性用が22~24cm。男性用は黒、紺、グレー、からし色の4色、女性用はこれらにピンク、ミントを加えた6色。材質は綿90%、ポリウレタン10%で、これを凹凸のあるあぜ編み加工し、保温性と履きやすさを高めている。

また、足を入れる履き口の左右に手の指を引っかける独特の「指かけ」部を付け、視覚障害者、リウマチなどで手や指先が不自由な人でも履きやすくなる工夫をしている。

色の識別は、履き口の折り返しの前側に、長さ3cm・高さ1mmの凸線を編み込み、その本数によって区別する仕組み。1本が黒、2本が紺、3本がグレー、線なしがからし色、4本がピンク、5本がミント=写真左=となっている。

男性用と女性用は、履き口の後ろ側に、長

さ1cmの短いラインを入れ、「ラインありが男性用」「ラインなしが女性用」で識別する。この識別方法は、東広島市の助成を得て、広島国際大学・防岡正之助教授、広島県立東部工業技術センターとの産学官共同で実用化し、同社、広島県、広島国際大学で意匠登録を共同出願している。

5月から日本点字図書館用具事業課で先行発売。「当初は月150足程度だったが、口コミで評判が広がり、今は週100足以上の注文がある」(新宅光男専務)として、当面は年間12万足を目標に販売増を図る。(高嶋健夫)

■問い合わせ先は(株)コーポレーションパールスター(TEL:0846-45-0116、Eメール:parlstar@pastel.ocn.ne.jp)



## 2006年版『高齢者・障害者等』JISハンドブック 日本規格協会、アクセシブルデザインの規格・資料を網羅

日本規格協会（JSA）は『JISハンドブック』2006年版シリーズの一環として、『高齢者・障害者等—アクセシブルデザイン』（＝写真は表紙＝）を発行した。JSAは毎年、数ある日本工業規格（JIS）を分野ごとにまとめた同ハンドブックを発行しており、『高齢者・障害者等』は38番目に当たる。

2006年版はA5判・1288頁、定価7350円。2001年に国際標準化機構（ISO）と国際電気標準会議（IEC）が日本からの提案で制定した「ISO/IECガイド71」（JIS Z 8071）をはじめ、わが国のアクセシブルデザイン及び福祉機器に関する22のJISのすべてが掲載されている。

共用品推進機構が事務局を務めた「JIS T0921—点字の表示原則及び点字表示方法—公共施設・設備」は、その中で最も新しい規格として初めて収録された。その他、E&Cプロジェクト時代も含め直接・間接に関わってきたものは、①S0011—消費生活製品の凸記号表示、②S0013—消費生活製品の報知音、③S0021—包装・容器、④Z8071—高齢者及び障害のある人々のニーズに対応した規格作成配慮指針、⑤T0103—コミュニケーション支援用絵記号デザイン原則—の5つ。

また、産業技術総合研究所、製品評価基盤機構など研究機関がデータの蓄積から生み出した高齢者・障害者配慮設計指針である「一視覚表示物—年代別相対輝度の求め方及び光の評価方法」「一消費生活製品の報知音」などのJIS、さらに巻末資料として、関係法令、ISO/IEC政策宣言『標準化業務における高齢者・障害者のニーズの考慮』、『高齢者・障害者関連国際規格一覧』なども収録されており、貴重な資料となっている。

『高齢者・障害者等』のハンドブックは、1999年に『福祉〔リハビリテーション関連機器〕』として初めて発行され、2001年には65の規格を収録した改訂版を刊行。その後、この書名では病院・福祉関係のイメージに限定されやすく、また視覚障害者用誘導ブロック（JIST9251：2001）などの新しい規格が制定されたこともあり、02年版より『高齢者・障害者』に改題された。

さらに03年版の発刊後、人間生活工学の分野で高齢社会における安全で快適な生活環境に関連したJISの整備、高齢者や障害者の特性を考慮した製品や環境を設計するための基盤的・横断的な技術の開発など、新たな動きがあり、再度書名の変更が求められ、04年版で『高齢者・障害者—アクセシブルデザイン』と改題。

05年版発刊後、「高齢者・障害者を特別扱いするのではなく、すべての人を対象とすべき（子供などへも対象を広げる）」との理由から、『高齢者・障害者等—アクセシブルデザイン』と、「等」が付くようになった。

書名が何回も変更されているように、アクセシブルデザインの標準化はまだ始まったばかりであり、多くの人の知恵と協力を必要としている。一度、アクセシブルデザイン標準化の現状に目を向けていただけたらと切に願っている。

■日本規格協会関連ホームページ  
<http://www.jisa.or.jp/default.asp>



## 随想 第24回 私と共用品 共用品・ADは“健康な高齢社会”への近道

矢野 友三郎 (財)製品評価技術基盤機構・標準化センター長

私と共用品の出会いは、2001年夏、星川安之専務との出会いからであった。こんなに素晴らしいことは世界へ発信していきましょうと、早速、その年の秋、コペンハーゲンで開催された国際会議—高橋玲子さんと一緒に出席し、日本の共用品の取り組みについて講演した。翌年、星川専務と(社)日本包装協会の酒井光彦常務と一緒にソウル、北京へ出向き、共用品の素晴らしさを説き、星川専務を議長とする「日中韓アクセシブルデザイン委員会」の新設に漕ぎ着けた。また、関係工業会・協会が集結した「アクセシブル・デザイン・フォーラム（ADF）」が発足し、内閣府、総務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省の関係5省庁の後援を受けた恒例のADFシンポジウムの開催へとつながった。

この世では、「タイミング」と「勢い」というのは一番大切である。

しかしながら、このような花火が上がる前には、先人たちの熱い運動があった。1991年4月、障害のあるなしや年齢にかかわらず、使いやすい製品・サービスを普及し、誰もが暮らしやすいバリアフリー社会を目指す16人から始まった勉強会、「E&Cプロジェクト」である。何事も10年思い続けると成就するというが、正にそのとおりである。

### 日本の対応次第で、世界の将来が変わる！

そして、2001年11月、共用品の経験をベースとして「ISO/IECガイド71（高齢者及び障害のある人々のニーズに対応した規格作成配慮指針）」の制定へと結実していく。当時、ISO中央事務局のトム・ハンコックス氏は、私に国際ガイドラインの発行に際して日本の貢献を得々と説明し、ドクター・キクチ（議長役を務めた菊地真・防衛医科大学教授）の名前を繰り返した。そして、ISOで初めて

の点字出版物となった国際ガイドを私にプレゼントしてくれた。

『未来への衝撃』『第三の波』の著者であるアルビン・トフラーは、近著『富の未来』の中で、「今後の10年に日本が行う変革により、我々がどのような車に乗り、どのようなエネルギーを使い、どのようなゲームで遊ぶのが違って来るだろうし、日本が高齢者にどう対応するのかで、我々の将来も違って来る」と述べている。世界の平均寿命は長くなり、これは発展途上国も例外ではない。すでにマレーシアでは平均寿命が70歳を超えた。そして、どの国もまだ高齢化に対応できるように設計されていない。高齢社会の先頭を歩む日本のとる道は、欧米やアジアのすべての国にも間違いなく大きな影響を与える。

現在、日本の65歳以上の高齢者は2500万人を超えた。これは福祉国家として有名なスウェーデンの総人口が900万人であることを考えると、我々自身が高齢社会の未来を創造していかなければならないことを示唆している。

今夏から、私自身が(財)製品評価技術基盤機構で高齢者・障害者のルール作りの仕事に携わるようになった。地球規模での高齢化は人類初めての経験であるが、高齢化の進展に比べて国民の意識や社会の対応は遅れ気味である。我々にとって、残された時間は極めて少ないことだけは間違いなくない。共用品を生んだ当時の企業、福祉関係者の先見の明に敬意を表するとともに、共用品推進機構の関係者の皆様と一緒に新しい時代を作っていきたい。

(題字は中野奈津美・財共用品推進機構運営委員)



## 映画『ベルナのしっぽ』 心の目で子育てをしたお母さんの物語

私たちナナ・コーポレート・コミュニケーションが刊行した書籍『ベルナのしっぽ』を原作とする同名の映画が完成し、全国各地で順次上映中で話題を呼んでいます。

これは、原作者・郡司ななえさんが27歳でベッチェット病で視力を完全に失い、その後、幾多の苦難を乗り越えながら生きていく実話です。

建築デザイナーになる夢を抱き、普通の会社勤めをしていた郡司さんは、突然おそった難病のためにその夢を捨てます。そして、同じ盲目の男性と結婚、自分たちの子供をつくり、普通のお母さんになるための夢の実現に向けて新たなスタートを切ります。

そこで、盲導犬ベルナと出会い、家族の一員としてのベルナの手を借りて、子育てに励むのです。

### 15万人の支援者ネットワーク

この原作は、単に盲導犬が賢いとか可愛い、偉いという話にとどまることなく、障害のある女性が、ごく普通に生き、天ぷらを揚げたり、煮物をしたり、あざやかな包丁さばきで家事をこなす現実を表現しています。

また、30年以上前の盲導犬への理解がほとんどない社会環境の中で、地域社会に生きる人間としてごく当たり前の提言を繰り返していきます。

同時に、大切な息子の子育てにかかわる教育問題でも、社会の無神経さ、非常識、無情への警鐘を鳴らしつづけます。開拓者魂あふれたその教育論は、今日の異常ともいえる状況にある社会や、教育界への問題提起に通じるものを感じます。

『ベルナのしっぽ』の映画化が実現するま



■ベルナ役の「ポーシャ」と郡司ななえさん役の白石美帆さんでは、実に8年以上もの年数がかかりました。その間、全国で15万人以上の支援者ネットワークが広がりました。

原作は、児童書・絵本などの関連本を含めると、100万部を超えるロングセラーとして読みつがれています。日本国内に限らず、韓国・タイ・インド・中国などでも翻訳され、世界へ大きな足跡を印しています。

また、原作者が盲導犬との“二人五脚”で実行している「盲導犬ベルナお話の会」は、ベルナが亡くなる1年以上前からスタートし、今日では3代目の盲導犬に受け継がれ、900回以上を数えるまでになりました。全国各地で、この「お話」を耳にした子供たち、大人たちは数十万人を超えると思われま

映画『ベルナのしっぽ』の上映は東京と川崎からスタートしましたが、おかげ様で静岡、大阪、神戸、札幌など各地で次々と上映希望の声があがり、現在、順次進行中です。

私たち関係者の希望は、劇場上映だけでなく、巡回上映として映画館のない小さな町や村の公民館、小学校などで上映し、一人でも多くの人たちに観ていただきたいということです。

実現は厳しいのですが、ときには、副音声付き上映の機会もあります。多くの方たちに支えられ、『ベルナのしっぽ』が社会に根を張り、役に立ってくれたらうれしいことです。

（福西 七重・財共用品推進機構評議員）

■映画『ベルナのしっぽ』公式サイト  
<http://www.bsproject.jp/>

## <この業界・この団体> (社)交通バリアフリー協議会 バリアフリー新法施行で、「面的整備」を技術面で推進

交通バリアフリー法施行（2000年）を受けて、2002年に発足した。正・賛助会員には鉄道車両、重機械、重電などの大手メーカーや地方自治体など約40の企業・団体が名を連ねており、産官学一体となった専門技術集団として、「人にやさしいシステム・施設・機器」の調査・研究に取り組んでいる。

活動の柱は、啓発活動と新技術開発に関する調査研究。前者ではシンポジウム（年1回）やフォーラム（同）の開催などに取り組んでおり、年明け後の1月17日（水）には、東京・赤坂区民センターで「第4回交通バリアフリーフォーラム」の開催を予定している。

### “第3の昇降機”の実用可能性を探る

後者では、例えば昨年度は「ホームと列車の段差・隙間に関する研究」（日本財団助成）を実施。車いす使用者、弱視者などを対象に、試作した補助装置などを使い、「段差高0～50mm・隙間幅0～80mm」で実証実験を行った。

今年度は「自律使用可能な斜行型階段昇降装置導入のための安全基準策定事業」（同）に取り組み、エレベーター、エスカレーターに続く“第3の昇降機”の開発可能性を探っている。車いす専用リフトに代わる、誰もが



●昨年度取り組んだ「ホームと列車の段差・隙間」に関する実証実験の様相

### ■(社)交通バリアフリー協議会

設立 2002年3月  
会長 井山 嗣夫（いやま・つくと）氏  
本部 〒107-0052 東京都港区赤坂4-3-1 共同ビル（赤坂）406-2  
問い合わせ先 TEL: 03-3584-5032 FAX: 03-3584-0577  
ホームページ <http://www.jtbfc.gr.jp/>

利用できる新装置で、コストや用地的な制約で昇降機が設置できない場所でのバリアフリー化に道を拓くことが期待される。

交通バリアフリー法とハートビル法を一体化したいいわゆるバリアフリー新法が12月20日に施行されるのを控え、同協議会では「新法がうたう面的整備を技術面から推進していきたい」と意欲を示している。

（高嶋健夫）



### <アクセシブルデザインの普及に向けて一言> “共用の発想”でより多くの人々が利用しやすい交通システムに

小栗良夫・(社)交通バリアフリー協議会事務局長・調査研究部長

私たちの役割は、行政、事業者、そして利用者の橋渡し役になることだと思う。交通バリアフリーの実現に向けた課題はまだ多く、特に「質と量の兼ね合い」が難しい。

その意味で、共用品・共用サービスの考え方は重要だ。例えば、車いすの人しか利用できない階段昇降機より、より多くの人々が利用できる“安価で設置しやす

いシステム”が望まれるわけで、シャブー容器のギザギザと同様の発想がこれからの交通システムには求められる。

バリアフリー新法の施行で、点から線へ、線から面への整備が加速する。当協議会の出番はこれからであり、共用品推進機構をはじめ関連団体と連携して行政・企業・市民のコラボレーションを促進していきたい。（談）

## 「韓国シルバー産業フォーラム」開催 日中韓の専門家が高齢化への対応で意見交換

9月22日、韓国・ソウルの韓国国際展示場（KINTEX）において、「シルバー産業専門家フォーラム」（主催・高齢親和用品産業化支援センター）が開催された。講演者は日本、韓国、中国の企業、大学、団体に所属する専門家で、それぞれの国の高齢化の現状や、それに対応する施策・方針などについて講演を行った。



■日本から参加した3人の講演者（右）と、共用品について発表する筆者（左）。

日本から参加したのはフランスベッド代表取締役社長の池田茂氏、日本福祉用具・生活支援用具協会（JASPA）常務理事・清水壮一氏、（財）共用品推進機構の金丸の3人で、それぞれ、日本の福祉用具、シルバー産業、そしてその標準化について講演を行った。

現在、人口に占める高齢者の比率は日本が最も高い。しかし、高齢化問題に直面しているのは、なにも日本だけではない。

2005年の合計特殊出生率（1人の女性が生涯平均何人の子供を産むかの推計値）を見ると、韓国は1.08であり、日本の1.25を下回っており、日本より早いスピードで高齢化が進んでいると考えられる。中国もまた、いわゆる一人っ子政策などにより出生率は低下している。こうした中で、韓国や中国でも高齢化問題への関心は急速に高まっている。

### 情報交換を促し、各国の国情に合う展開を！

しかしながら、今回のフォーラムに参加してみて、中国、韓国の講演者は各国の現状と今後の課題について発表していたものの、具体的な方策は必ずしも発表の中にはなかったように思われる。

講演後の討論会においては、高齢者のための製品・サービスのあり方、介護保険の導入の是非、福祉機器の開発促進など、幅広いテーマが取り上げられたが、そのため、かえって論点を絞りにくくしてしまったのではないかと思われた。

今後はフォーラム自体のテーマを絞りこむことで、よりいっそう来場者の興味を引くものになるのではないだろうか。

3カ国はそれぞれに独自の国民性を持っている。政治体制も異なり、経済発展もまた異

## 共用品ネット活動報告会「わくワークショップ2006」 12月16日（土）に、東京・竹橋の毎日ホールで開催

（財）共用品推進機構個人賛助会員の会「共用品ネット」（代表・見山啓一氏）は12月16日（土）午後1～5時、東京・竹橋の毎日ホールで活動報告会「わくワークショップ2006」（佐藤俊夫・実行委員長）を開催する。

共用品ネットは共用品・共用サービスの普及、多様な人々の不便さの調査、問題点の発見、企業や行政への提案など幅広い活動を、特定のテーマ別に編成したプロジェクトごとに実施している。活動報告会はそうした日頃の活動状況を広く一般の人たちにも知ってもらい、活動への参加や協力の輪を広げる目的で毎年1回、開催しているもの。

今年、「マネー&カード」「気配リアフ

リー」「利用しやすいバス停のあり方」「パッケージ」「片まひって何？」「ミュージアムのUD」など各プロジェクトやシーズ坦克の活動に関するパネル展示と活動発表が行われる。また、共用品の紹介と実物展示、研究発表や「気配リアフリー」の寸劇、関西、名古屋、九州の各関連団体の活動を紹介するパネル展示、「共用品未来トーク」「共用品クイズラリー」など、共用品体験が一杯の楽しいイベントを企画している。

会場の毎日ホールは、東京メトロ東西線「竹橋」駅下車、出口1bから地下1階の同ホールに直接入れる。

（佐藤俊夫）

問い合わせ先：info@kyoyohin-net.com

なる道筋を歩んできた。高齢化という国が抱えた課題は同じでも、それぞれの国情に合わせた形で試行錯誤し解決していかなければならない。

その際、他国の情報を得ることは重要であ

り、先行する日本が知見・ノウハウを提供し、各国の取り組みを促進する役割を果たすことが求められよう。このフォーラムをさらに発展させ、最新情報を交換できる場になることを期待している。

### ■「2006年高齢親和産業及び孝展示会」

高齢者用緊急通報システムなどを紹介

「シルバー産業フォーラム」に合わせて、隣接する展示会場で、「2006年高齢親和産業及び孝展示会」が開催された。

福祉・医療機器メーカー、政府の健康福祉部（日本の厚生労働省に当たる）など、約80社・団体が出展。産官学連携の研究開発として、高齢者用の緊急通報システムを紹介するブースが目立っていた。

ちなみに、展示会のタイトルにある「高齢親和産業」とは日本流に言えば共用品産業のこと。また、「孝展示会」の「孝」と



は、「親を大事にして、親孝行をしよう」という意味。儒教精神が今も社会に根付いている韓国らしいネーミングだ。

## 「共用品の経営戦略：連携して事業化」

後藤芳一（共用品推進機構運営委員、日本福祉大学客員教授）

商品の競争力を得るには、市場<sup>②①-①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩</sup>（小さい添え字<sup>①-④</sup>は、同様の用語が本講の第1～43講に既出であることを示す）展開の速さと専門の深さが必要になる。限られた経営資源のもとで行うには、戦略的アライアンスなどが試されている。多面的視点を要するバリアフリー<sup>⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>の製品開発には、社外資源の活用事例が豊かであり、他分野の参考になる。

### 1. 単独事業A＝部分的に外部資源を活用

事業化に必要な一部の作業を、外部の専門家を活用して行う（アウトソーシング）。コンセプト<sup>①②</sup>開発、知的財産やニーズの調査、モックアップ作成、意匠、CAD・詳細設計、特殊加工、ソフトウェア開発、分析・評価・認証、取扱説明書<sup>③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>作成、広告<sup>㉠㉡㉢</sup>・広報、物流<sup>㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㊀㊁㊂㊃㊄㊅㊆㊇㊈㊉㊊㊋㊌㊍㊎㊏㊐㊑㊒㊓㊔㊕㊖㊗㊘㊙㊚㊛㊜㊝㊞㊟㊠㊡㊢㊣㊤㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>、販売促進、顧客サービス<sup>㊿</sup>などが広く行われている。

技術開発に際して、部分的に、大学や公的研究機関の知見を活用する方法もある。完装（福岡市）は「サンクリア」（反射式駐車案内シール）<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>の開発で、九州芸術工科大（現九州大）の支援を得た。

### 2. 単独事業B＝コア部分は実質的に共同開発

地域の伝統的産業が、鍵になる技術の開発について専門的知見を持つ公的研究機関から支援を受ける。起立木工（静岡市）は、ユニバーサルデザイン（UD）<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>の家具を開発し、新事業部門の2002～05年度の売上高は10億円を超えた。開発には、静岡県静岡工業技術センターが持つ、人間工学<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>に関わる測定装置や分析方法を活用した支援を受けた。

コア機能の開発に、大学の高い技術の支援を得る。日本セイフティ（東京都）は、排泄物を自動で包装処理して、臭いを抑える「ラップボン」（自動式ポータブルトイレ）<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>を開発した。排泄物の包装を熱処理で行って封印する独自の機構とその駆動システムの開発に、東京工大の支援を受けた。

### 3. 複数の企業や専門家が対等に協力

同業種の専門家が集まり、その職能を活かして課題解決をめざすうちに、新しいコンセプトを生むこともある。プロダクトデザイナーの集まりであるRIDグループ<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>は、1972年に発足して、障害者機器<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>を作り始めた。82年には、障害<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>の有無にかかわらず同じ日常生活用品を使える「グレーの部分<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>」を提唱した。これが共用品<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>の取り組みにつながり、UDの概念の先駆けになった。

異業種の企業<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>の連携<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>によって、事業展開する例もある。佐賀県有田町の山忠は、陶器製造・流通10社で連携体を作り、工夫した陶土による軽量強化磁器の製造・販売に取り組む。コア企業を決めて役割分担を明確にするなど、従前の異業種交流会より進んだ連携を行い、中小企業新事業活動促進法による「新連携」の認定を受けた。航空機搭載用や介護用食器<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>の市場が見込まれる。

標準化を行うために、同業各社が横断的に協力する例もある。シャンプー容器<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>（日本化粧品工業連合会<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>）、盲導犬マーク<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>（日本玩具協会<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>）など、共通の仕様や表示ができた。報知音<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>のようにJIS規格<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>ガイド71<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>のように日本が主導<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>として、国際規格ができた例がある。

### 4. これからの取り組み

開発案件ごとに、専門家のプロジェクトチームを作るという新手法の実践例もある。特殊衣料（札幌市）は、案件ごとに、プロダクトデザイナー、理学療法士<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>などの医療・福祉<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>の専門家を集めた開発委員会を組織し、「アポネット」（保護帽）などを商品化した。固定的な経費の負担を抑えて、高度な専門的知見を活用できる利点がある。

今後は、ネットワーク<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>上に、知見やニーズを持ち寄って開発する手法の普及も期待される。

## いかにして「確保する」を確保するか 「障害者の権利条約」批准への課題

☆…多くの国が参加し制定をめざしてきた「障害者の権利条約」が早ければこの12月、国連で採択される見込みとなってきた。

この8月、本条約を検討する8回目の会議が国連本部であり、日本からは、外務省・内閣府・法務省・厚生労働省・文部科学省、民間からは日本障害フォーラムからの推薦者で構成されるメンバーが代表団として参加。大詰めにかけている本条約の細部検討が行われた。

☆…本条約は、全文で50条と長いものとなっている。第1条の「目的」では、「この条約は、障害のある人によるすべての人権及び基本的自由の完全かつ平等な享有を促進し、保護し及び確保すること並びに障害のある人の固有の尊厳の尊重を促進することを目的とする」とある。

第3条の「一般原則」では、(a) 固有の尊厳、個人の自律（自己の選択を行う自由を含む）及び人の自立の尊重、(b)非差別、(c)社会への完

全かつ効果的な参加及びインクルージョン、(d)差異の尊重と、人間の多様性及び人間性の一部としての障害の受容、(e)機会の平等、(f)アクセシビリティ、(g)男女の平等、(h)障害のある子どもの発達しつつある能力の尊重と、障害のある子どもがそのアイデンティティを保持する権利の尊重——など11項目があげられている。

(f)のアクセシビリティでは、「特に」との断り書きのもと、建物、道路、輸送機関、屋内外の設備（学校、住居、医療設備、職場など）、情報、通信が主な対象となっている。

第7条「障害のある子ども」、第11条「緊急事態」、第24条「教育」、第27条「労働及び雇用」、第30条「文化的な生活、レクリエーション、余暇及びスポーツへの参加」、第49条「アクセシブルな形式」などは、共用品・アクセシブルデザインとの関係が特に深い。

☆…本条約は、規格の分野で言うと、



星川 安之 だより

2001年に発行された「ISO/IECガイド71 規格作成者のための高齢者・障害のある人々のニーズに対する配慮設計指針」に当たる。

例えば、第49条「アクセシブルな形式」では「この条約の本文は、アクセシブルな形式で利用できるものにしなければならない」とある。これは、「ISO/IECガイド71」でも同じことが記載されている。

そこで、各項目の語尾にある「～を考慮する」「～を確保する」を達成するためには、「どのようにして達成するか」が大きな課題となる。

日本が本条約を批准するまでにはなお2～3年、国内法などを整備する必要があるとのこと。その間に、「どのようにして」を「ISO/IECガイド71」といかにつなげるか、知恵の出どころと思う次第である。

(★)

## 共用品通信

### 【新刊案内】

- 「TYOの勢いはなぜとまらないのか」  
テレビCM、アニメ、ゲームなど映像コンテンツ制作企業・TYOの経営戦略にスポットを当てたビジネス書。著者は本誌編集長の高嶋健夫。日経BP企画発行、日経BP出版センター発売。四六判・312頁、定価1680円。
- 【共用品推進機構の動き】
- 第1回アクセシブルデザイン検討委員会（9月7日）
- 第1回アクセシブルデザイン社会ニーズ検討委員会（9月13日）
- 第2回アクセシブルデザイン社会ニーズ検討委員会（10月24日）
- 第1回アクセシブルデザイン協議会（フォーラム）幹事会（9月13日）
- 第2回アクセシブルデザイン協議会（フォーラム）幹事会（10月24日）
- 第1回アクセシブルデザイン・ミーティングWG（9月22日）
- 第2回アクセシブルデザイン技術標準化開発委員会（10月6日）
- 第1回サービス産業人材育成事業「加齢等配慮委員会」（10月18日）

### 【講演】

- 道徳地区公開講座授業（9月12日）  
「年長者への敬愛」をテーマに、あきる野市立西中学校で渡辺が授業。
- 【展示会】
- 葛飾区立ろう学校で共用品を展示（10月12日）  
「APCD 2006 JAPAN」の一環として展示。森川、水野が児童・海外のろう教育専門家に説明した。
- 【海外視察】
- 世界ろう連盟（WFD）、世界盲人連合（WBU）訪問（10月23～27日）  
アクセシブルデザイン技術標準化開発事業の一環として、両国際障害者団体を金丸、水野が訪問。

### ＜読者の皆様へのお願ひ＞

「共用品通信 情報アラカルト」欄では新製品・新サービス、セミナー・講演・展示会、モニター募集など、個人・法人賛助会員の皆様からのお知らせも掲載致します。事務局「インクル編集担当宛」に、ニュースリリース、イベント案内などの情報をお寄せください。Eメールも歓迎です。



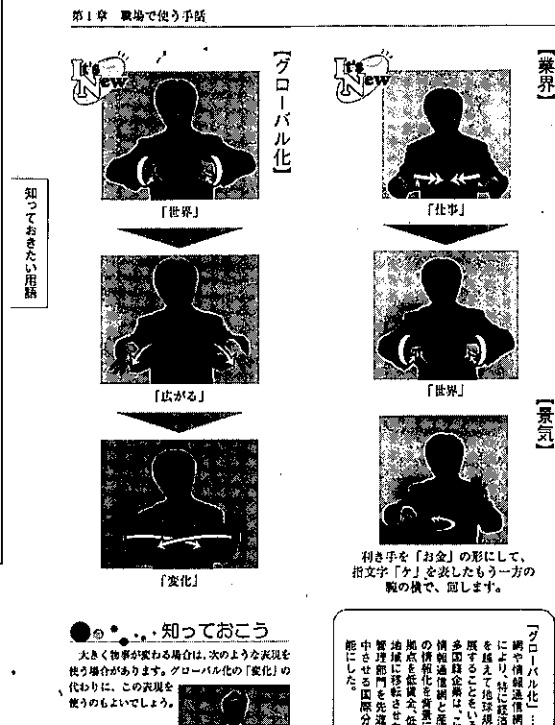


**(株)UDジャパン「ユニバーサル手話シリーズ」(書籍)**  
**健聴者にも役立つ「コミュニケーションの必需品」**

■UDジャパン「ユニバーサル手話シリーズ」  
 ▼「0歳からの手話」  
 発行：2005年4月  
 体裁：A5判・144頁  
 定価：本体1200円+税  
 ▼「手話でダイビングを楽しもう」  
 発行：2005年6月  
 体裁：A5判・144頁  
 定価：本体1400円+税  
 ▼「会社で使う手話」  
 発行：2006年6月  
 体裁：A5判・288頁  
 定価：1500円+税  
 ▼問い合わせ先：(株)UDジャパン  
 (TEL：03-5769-0212)  
 ▼ホームページ  
<http://www.ud-japan.com/>

「手話は聴者にも便利なコミュニケーションの道具。知っているのと、みんなの生活が豊かになります」。UDジャパンの内山早苗社長は、シリーズ刊行の狙いをこう説明する。

第1作『0歳からの手話』発行のヒントは、聴覚障害者の松森果林さん(個人賛助会員)の子育て体験だった。まだ言葉が話せない赤ちゃんも、お母さんの表情や身振りを見て育つ。そこから、「手



知っておこう  
 大きく異なる場合は、次のような表現を使う場合があります。グローバル化の「化」の代わりに、この表現を使うのもよいでしょう。

ビジネス用語450語を収録

第2作『手話でダイビングを楽しもう』はもっとわかりやすい。海の中では誰もが言葉で会話できない。そんな時、目の前の美しい魚の名前を手話で伝えられたら、さらに楽しくなるし、危険に遭遇しても的確にメッセージを送れる。海中では、手話はまさに「ユニバーサル言語」なのだ。

近刊の『会社で使う手話』には、約450のビジネス用語の手話を収録した。会社で使う専門用語の中



■「会社で使う手話」の表紙カバー(上)と、同書に掲載された「ビジネス手話」の例

には、まだ手話に翻訳されていない言葉が多く、それが健聴の社員と聴覚障害者のコミュニケーションギャップの原因になっているという。

そこで、数多くの用語を新たに手話化した。例えば、「グローバル化」は「世界+広がる+変化」、「知的所有権」は「考え+財産+力+権」といった具合だ。

来年春には第4作『サポート手話』を刊行する。今度は、言葉によるコミュニケーションが難しい介護老人と介護者との意思疎通の「手助け」をめざす。

たかしまたけ お (高嶋健夫)

アクセシブルデザインの総合情報誌  
**インクル** 第45号  
 2006(平成18)年11月25日発行  
 "Incl." vol.8 no.45  
 ©The Accessible Design Foundation of Japan  
 (The Kyoyo-Hin Foundation), 2006  
 隔月刊、奇数月に発行  
 一般頒価 1部1000円  
 (但し、個人・法人賛助会員については、購読料は年会費の中に含まれています)  
 ※視覚に障害のある方など、墨字版がご利用できない方にはTXTファイルのフロッピーディスクを提供しています。必要のある方は、事務局までお申し出ください。

編集・発行 財共用品推進機構  
 郵便番号 101-0064  
 東京都千代田区猿樂町2-5-4 OGAビル2F  
 電話：03-5280-0020  
 ファクス：03-5280-2373  
 Eメール：jimukyoku@kyoyohin.org  
 ホームページURL：http://kyoyohin.org/  
 発行人 鴨志田厚子  
 事務局 星川 安之  
 森川 美和  
 金丸 淳子  
 小泉みゆき  
 渡辺 文子  
 水野由紀子  
 編集長 高嶋 健夫

執筆・協力 後藤 芳一  
 (五十音順) 佐藤 俊夫  
 福西 七重  
 関戸 菜美  
 矢野友三郎  
 山本百合子  
 印刷・製本 ベスト・イーグル(株)  
 サンパートナーズ(株)  
 本誌の全部または一部を視覚障害者やこのままの形では利用できない方々のために、非営利の目的で点訳、音訳、拡大複写することを承認いたします。その場合は、財共用品推進機構までご連絡ください。上記以外の目的で、無断で複写複製することは著作権者の権利侵害になります。